

#### (4) 行財政の強化

持続可能な行財政運営を確保するため、職員一人ひとりが創意工夫を凝らし、事務事業の効率化や業務改善に取り組んでまいります。

また、業務全般にデジタル技術を導入し、効率的な行政運営を目指してまいります。

「ふるさと応援寄附金」については、全国から多くの寄附をいただき、町内経済への波及効果も大きいことから、引き続き返礼品の充実やPR活動をを行い、さらに町外法人に対しては、八雲町の地方創生活動をPRしながら、「企業版ふるさと納税」の取り組みを推進してまいります。

人材は組織の基本であることから、人材確保のための方策を検討するとともに「職員のモチベーションアップと能力向上」を目的とした職員研修を充実させ、職員がいきいきと充実して働ける職場環境となるよう努めてまいります。

#### (5) 広域行政の推進

北渡島檜山4町地域連携事業については、連携体制を継続し、道南北部の中心的な自

治体としての役割を担ってまいります。

また、南北海道定住自立圏の取り組みについては、ドクターヘリの運航や救急救命士病院実習の実施など、引き続き圏域に必要な機能を確保するための施策を推進してまいります。

## 令和6年度

# 教育行政執行方針

「第2期八雲町教育推進計画」の後期2年次となる令和6年度は、子どもたち一人一人の「自立」「協働」「創造」の育成を目指し、誰一人取り残すことのない学びの実現を一步一歩進めるとともに、八雲町の教育理念の具現化を図ってまいります。

また、本年は木彫り熊発祥100周年を迎えることから、徳川義親が興したその歴史を振り返り、木彫り熊がより一層広く知らしめられるとともに、町民の愛着を育み、この節目の一年が永く記憶に刻まれるよう取り組んでまいります。

こうした考えの下、令和6年度の教育行政の重点施策について、申し上げます。

### 1. 自他を認め持続可能な社会の創り手を育む教育活動の展開

初めに、学校教育についてですが、予測困難な時代の中で、子どもたちには、自ら課題を見つけ、学び、考え、自ら判断して行動し、よりよい

社会や人生を切り拓いていく力が求められており、学校がこのような「生きる力」を確実に育んでいくため、地域社会と連携・協働しながら、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていく「カリキュラム・マネジメント」を実践できるよう支援してまいります。

子どもたちが社会の創り手として、必要となる資質・能力を確実に身に付け活用できるよう、八雲町の子どもたちの課題である、文の構造や文章・図表の内容を正しく理解し、既存の知識と新しく得た知識から論理的に判断したり、表現したりすることができるとともに、「汎用的読解力」を育む視点で、すべての小・中学校において共通実践事項である「八雲スタイル」を確立し、授業改善を推進します。

さらには、一人一台の学習用端末の活用を促進し、子どもたちの個性や学習状況に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現するとともに、中学校において生徒自らの興味・関心に基づく創意工夫を生かした探究